

令和4年6月30日

南の風特集号女子日本代表ワールドカップに向けてV

～ 恩塚ヘッドの目指すバスケットボール、就任からトルコ戦まで ～

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号Ⅳの続きです。

4 女子日本代表のオフェンスの考え方

特集号Ⅰ、Ⅱで触れた恩塚ヘッドの考えを反復します。オーストラリア遠征を終えて帰国してからのコメントです。

「こういうときにはこうしよう」と選手同士が判断し、流れるようなプレーを求めていたります。続けて、「今までひとつずつ技術を深め、ひとつのセットプレーを深め、ひとつのフィニッシュを深める、とそれぞれを深めていかなければいけなかったです。例えるならば、絵を細かく描いて行くような感じでした。しかし今、女子日本代表が目指すのは、フレームレートを増やすような感じです。オフェンスの始まりからフィニッシュまでの段階を踏んでいく中で、さまざまな局面がありますが、その中に目的と原則を入れています。簡単に言えばボールマンがいつ攻めればよいか、ボールを持っていない選手は何をすればよいのか、など迷うシチュエーションに対して言語化し、みんなが共通のビジョンを持って動くバスケット手法に変えています。」と言います。

原則を元に、選手たちがより良いプレーを選択することを求め、固定したセットプレーも用意されていないと聞きました。それに対し最初は不安に思う選手もいたようです。

恩塚ヘッドは、「戦術＝セットプレー」ではないことを強調し、「戦う力を高めるための術」と説きました。そして、「戦う力を高めるために、滑らかな動きの中でこういう局面になれば、こういうチャンスができるので、そのチャンスを見逃さずにしっかりとつかめるようにしています。つかんだチャンスを生かす選手に対し、まわりの選手も自ら考えてサポートできれば戦う力は必然的に高まっていきます」と語りました。

恩塚ヘッドの目指すところは、オフェンスの究極目標のような気もします。凄い発想です。今後どのような形で進化していくのか楽しみです。

それではこれから、ワールドカップ本戦までの恩塚ヘッドの戦略を踏まえ、私の感想を書きます。ズバリ言えば恩塚ヘッドが目指すのは、『全員が原則を理解しプレーする中で、それぞれの局面にあったフリーランスオフェンス』になるのでは、と思います。

恩塚ヘッドがいうオフェンスの原則とは、例えば、「エントリーの際のドラッグスクリーンからの合わせは、○○○の方法や△△△の方法があるや、ピンダウンからは○○○でやろう」という、基本的なムーブメントは抑えておき、場面、場面での選手個々の判断を最優先して攻めることだと思います。アドバンテージを見つけて積極的に攻めることを求めていると感じました。

オーストラリア遠征時の3戦を観ると、オフェンスでの選手個々のつながりが、ぎくしゃくしている様子も見られましたが、帰国して国際強化試合のトルコ戦では、エントリーからの選手個々の動きや合わせが、格段にスムーズになった印象を受けました。そして一人ひとりが積極的にシュートしていく場面が増えたと思いました。 次号でもう少し深掘りします。